

令和5年度 第2回 東播臨海広域ごみ処理連絡会議

会 議 録

1 開会及び閉会の年月日時並びに場所

開会：令和6年2月6日（火）午前10時00分

閉会：令和6年2月6日（火）午前10時50分

場所：エコクリーンピアはりま 管理棟4階 大会議室

2 会議に出席した者の職及び氏名

会長（議長）	高砂市長	都 倉 達 殊
委員	加古川市長	岡 田 康 裕
委員	稲美町長	中 山 哲 郎
委員	播磨町長	佐 伯 謙 作

3 議事

- （1） 令和5年度 広域ごみ処理事業について
- （2） 令和6年度 広域ごみ処理事業について
- （3） 電力地産地消事業について
- （4） その他

4 議事の経過及び確認事項

令和5年度 第1回 東播臨海広域ごみ処理連絡会議（令和5年7月11日（火）開催）会議録を確定。

- （1） 令和5年度 広域ごみ処理事業について

① 事務局から議事（1）について報告した。

- ・令和5年度高砂市広域ごみ処理事業一般会計予算及び電力売払収入の取り扱い等について
- ・エコクリーンピアはりま ごみ処理施設 令和5年度運転実績及び見込み

② 議事（1）について全委員が確認した。

③ 質疑応答

1）基金積立額の目標について

- ・加古川市長
20億円以上を積立するとした根拠は。
- ・事務局

使途として特に念頭に置いているのは施設の解体費である。解体に伴う負担を軽減するため、基金を設立する段階で各市町と共有している額が20億円であった。昨今の物価上昇を踏まえ、目標額を20億円とすることで確認をお願いしたい。

2）環境事後調査について

- ・加古川市長
振動が過年度を下回った理由は周辺整備事業が寄与したと考えてよ

いか。

- ・事務局

ある一定の効果はあったと考えている。周辺の状況にもよるため本事業によるものか断定できないが、悪化はしていないと判断している。

- ・稲美町長

環境事後調査結果は公表しているのか。

- ・事務局

高砂市のホームページで公表している。

(2) 令和6年度 広域ごみ処理事業について

① 事務局から議事(2)について報告した。

- ・令和6年度 広域ごみ処理事業にかかる予算について

- ・令和6年度 広域ごみ処理事業に係る2市2町の経費負担見込内訳

② 議事(2)について全委員が確認した。

(3) 電力地産地消事業について

① 事務局から議事(3)について説明した。

- ・電力地産地消事業検討内容について

- ・来年度以降のスケジュール(案)

② 議事(3)について全委員が確認した。

③ 質疑応答

1) 検討内容について

- ・加古川市長

地域新電力会社を設立するケースで、事業の発展性等が期待できるとあるが、外部流出していた利益を内在化することができることが理由と理解してよいか。

- ・事務局

地域内経済の循環を目的の一つとしており、加古川市長のご理解のとおりであります。今後とも検討を進め事業に取り組みたいと考えています。

- ・加古川市長

考えられるリスクとは何か。

- ・事務局

ウクライナ危機による電力高騰があっても回避できる試算をしているが、エコクリーンピアは里まの発電が事故や災害などで長期間停止すること及びパートナー事業者が倒産すること等が大きなリスクと考えている。

- ・加古川市長

パートナーシップ事業者の選定は、株主にするか否かも含めて経営に大きな影響を与える部分であるため考え方を確認したい。

- ・事務局

リスク等の課題を十分検討のうえ、公募の前に2市2町で課題の確認をしながら進めていきたい。

- ・播磨町長

新会社への出資者について、民間を巻き込むか等検討が必要と考えられる。

- ・事務局

播磨町長のご意見のとおりであり、2市2町のイニシアティブを発揮することのできる枠組みを考えた上で、安全かつ効果的に事業が展開していけるよう検討する。

2) スケジュールについて

- ・加古川市長

スケジュールの前倒しは検討できないのか。

- ・事務局

専門部会の中でもスケジュール前倒しについて意見がある。2市2町の足並みがそろえば前倒しが可能であると考えられるので、検討を進めていきたい。

(4) その他

報告事項なし。

(傍聴者 1 名)

以 上